

令和8年度

福島小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○子どもが主体的に学ぶ楽しい授業・わかる授業の実践
 ○個に応じた教育活動に取り組み、基本的な生活習慣を身につけた子どもを育てる。

校長	学力向上推進員	学力向上担当教員
----	---------	----------

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○既習事項の学習内容については、ある程度の定着がみられる。</p> <p>●基礎の漢字・計算が十分ではない個別指導の必要な児童もおり、学習定着の差が大きい。</p> <p>●自分の思いを伝えるための語彙が十分でない。</p>	<p>・基本的な生活規律や学習規律を身に付け、学年相当の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。</p>	<p>・「学習の構え10の約束」を全教職員が共通理解し、全学年で指導する。</p> <p>・漢字の小テストを定期的に行ったり、音読・計算カードを家庭と連携して活用したりする。</p> <p>・友達の商品や新聞や視写等を活用した模範例を紹介したり、個に応じた課題を提示したりする。</p> <p>・優れたノートや自主学習の紹介を廊下等に月に1度行う。</p>			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○思考力・判断力・表現力が高い児童が授業の内容を深めたり高めたりしている。</p> <p>○総合的な学習の時間や、英語活動の時間において、調べたことや感じたことをまとめることはできている。</p> <p>●各教科等の時間における学習に課において、自分の考えを分かりやすく伝えたりノートに記したりすることに課題がみられる。</p>	<p>・相手を意識して、自分の考えを伝えるために、話したり書いたりすることができる。</p> <p>・課題に対して既習を生かしたり、根拠を明確にしたりして考えをもつことができる。</p> <p>・他者と話し合いを通して、考えを比較したり統合したりして、よりよい解や新しい考えをつくり、文章や発話によって表現することができる。</p> <p>・必要な情報を読み取ったり、目的や条件に応じて書いたりできる。</p>	<p>・クラス全体の「問題解決的な学習」を大切に授業構成を心がけ、授業の中に意図的に「書く活動」を取り入れるようにする。</p> <p>・英語活動や国語科は表現方法そのものを、他の教科等では手段としての言語活動の解明を中心とした研修を行う。</p> <p>・ペア学習やグループ活動など学習形態や思考ツール等を活用した思考法を工夫し、考えを比較したり統合したりする機会を設ける。</p>			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○家庭学習や読書の習慣が定着している児童が多くいて、与えられた課題について根気よく取り組むことができる</p> <p>●学習に対する姿勢が受動的な児童や間違いを恐れて消極的になってしまう児童がいる。</p> <p>●授業が始まるまでに学習の準備ができていない児童が一部にみられる。</p>	<p>・わかる楽しさや喜びを感じ、進んで粘り強く学習に取り組むことができる。</p> <p>・新しい物事に挑戦したり、他者の話を詳しく聞いたりして、進んで関わろうとすることができる。</p>	<p>・全教職員が一致して、チャイムが鳴ったら授業をスタートさせる。</p> <p>・授業の中で、児童の頭の中に「？」を作り、それを「！」にするような授業構成を行う。</p> <p>・ICT機器を適切に活用する。</p> <p>・自ら課題を選択したり、思いを表現したり発表したりする場面を設定する。</p> <p>・興味・関心に応じた教材づくりや授業づくりを行う。</p>			

